



Council No.8 Japan Region

Newsletter

Vol.27 No.2 Dec. 22nd

< 会長から会員の皆様へ > 第27期会長 烏谷まゆみ



カウンスルNo.8 第27期第1回会合は、2016年10月31日、お陰さまで無事に終了することができました。公営という質素な会場ながら、ハローウィンカラーで彩られ、リージョン、他カウンスルからの多くのお客様にも喜んでいただきました。コーディネーターを始め、担当クラブ各役職の方々、プログラムに携わってくださった方々、会員の皆様から惜しみないご協力を頂きましたこと、心よりお礼を申し上げます。

今回のプログラムは「その瞬間まで私らしくーリビングウィルとは」というテーマではありましたが、講師の丹澤太良氏のユーモアあふれるお話で、会場は共感する頷きや笑いが絶えませんでした。いつかは誰にでも訪れるその瞬間を、自分はどのように迎えたいか常日頃から心の準備をし、家族とコミュニケーションを取っておくことが大事だということを学んだ講演でした。その後の話し合い、質問も活発に行われました。突然死には、警察が入ることも、リビングウィルにも遺言並みの法改正を、後期高齢者医療制度への提言もあり、ITCならではの深い質問コーナーであったと感じました。プログラム委員会では、講師と何回もの打ち合わせをし、重くならないように配慮していただきました。また、プログラムリーダーの藤原雅子さんの優しい静かな語り口は、興味を惹き起こしてくださるものでした。有難うございました。

今期のテーマは「毎日が即興劇」です。就任の挨拶でもお話しさせていただきましたように、私達は毎日筋書きのない即興劇を演じているようなものです。とは言え、即興劇を楽しむのも、準備あってこそです。今回マイクの点検をきちんとしなかったことが原因で声が通らず、会場が中々静かにならなかったことで、準備不足を痛感しました。元気のいい会員の皆様に負けないよう、マイク点検をおろそかにせず、こぴっと開会と閉会を決めるようにします。

第2回会合は、2017年4月22日(土)、「柏の葉カンファレンスセンター」にてスピーチコンテストが行われます。初めての会場なので、アクセスに戸惑うことのないよう、周知に努めます。素晴らしいスピーチを聞かせていただくことを、楽しみにしています。

カウンスル No.8 テーマ 「毎日が即興劇」

日本リージョン テーマ 「見上げて 共に進もう」

ITC 国際 テーマ “Leading the Way” (先頭を切って…)



第 27 期第 1 回カウンスル会合

第 27 期第 1 回カウンスル会合が 10 月 31 日(月)午後 1 時より東京ウィメンズプラザにて開催され、**会員 68 名が参加した**。また、当日のプログラム講演者、丹澤太良様、公式訪問者リージョン会長・中野知子様を始めとしてリージョンより役員 5 名、カウンスル No.3 会長・土川邦子様を含む **11 名のゲスト**がご参加下さった。

ハロウィンのデコレーションで飾られた会場の下、元気スマイルがトレードマークの烏谷まゆみ会長の挨拶で開会された。日本リージョン会長・中野知子様からもご挨拶を戴き、日本リージョンの状況や今年度の方針、来年のリージョン大会のご案内などをお話し戴いた。ビジネスは滞りなく行われ、カウンスル役員指名委員には永井眞澄さん(彩玉)、岩佐圭子さん(東京)、伊藤記美子さん(サンデー)が選出された。また、カウンスル委員の中にはハロウィンの仮装に合わせムーミン村のリトル・ミィの真っ赤なコスチュームで発表された方もいて場を和ませた。

休憩を挿み、櫻井をさみさん(葦崎)のインスピレーションでプログラムが始まった。プログラムリーダーは藤原雅子さん(柏・東葛)。プログラムは日本尊厳死協会理事、関東甲信越支部長、丹澤太良様により『**「その瞬間まで 私らしく」ーリビングウイルとはー**』をご講演戴いた。重いテーマではあったが、丹澤氏はときにはユーモアも交え、ご自身の体験や尊厳死について、リビングウイルの大切さをわかりやすく話し下さった。その後各テーブルを囲んで話合いが持たれた。

プログラム終了後、リージョン大会準備委員長・中尾光子様より第 35 回リージョン大会のインフォメーションを戴き、西村郷子第一副会長より次回会合のアナウンス、担当クラブである彩玉クラブ、東葛クラブへの烏谷会長からの謝辞の後、無事に閉会した。その後、ハロウィン風に可愛らしくラッピングしてくださったお菓子を囲んでコーヒータイムを楽しんだ。(文責：和田)



プログラム 講演「その瞬間まで 私らしく」までの道

プログラム委員長 西村 郷子

Memento mori!

「えっ！カウンスル会合で「死」を取り上げるの？ 暗いんじゃない、みんな来ないよ」

“そうだろうなー、何か楽しいことがいいよなー” (私)

「何ができるだろう」「何をすべきだろう」、プログラム委員長を引き受けて以来、何も決まらぬまま、悶々とした日々が只々過ぎてゆく。そうだ、この度は「できるだろう」ではなくて「すべきだろう」に重きを置こう。リーダーを任されたもののこの意志薄弱な私が、関心と熱意を持ち、使命感(みたいなもの)を強く持たなければ これから始まる準備の為の数か月をどうやって乗り越えることができるだろう。プログラム委員のみんなに相談、「いいんじゃない、悪くないわよ、わたしたちお年頃だし〜」

みんな優しいから面と向かって反対はしない。ありがとうみんな、これで決心がついた。活動開始である。日本尊厳死協会に電話、私も会員であることを殊更に告げて、熱心に目的を述べ依頼書を送ってもらう。日時：10月24日（当初、会合予定は24日だった）、場所、会の目的等を伝え祈るような気持ちで返事を待つ。「講師が決まりましたら連絡します」って。第1関門突破！後は何としても場所の確保を頑張らねば、とは言え、ウイメンズプラザは抽選で決まる。抽選発表の深夜、恐る恐るパソコン画面を見て仰天！「24日、この度は残念でした」まさかの落選であった、心臓もう一つほしいね。さあどうしよう、また出直した、眠れませんでした。万一のために取っておいた31日（こちらはOK）の線で、もう一度協会に電話。“少しお待ちください”、祈るように待ったその“少し”の長いこと。「31日、大丈夫ですよ」。捨てる神あれば拾う神ありだった。

カウンスル会合で満足してもらえるプログラムを考え、準備し、実施するのは本当に難しいことだ。準備段階で折れそうになる気持ちを立て直し、奮い立たせなければならぬ。賛否両論は覚悟の上のプログラムだったが、プログラム委員、役員をはじめ、みなさんの支えが心に沁みてうれしかった。

メメント モリ！

（注：Memento mori とは、ラテン語で「死を忘れるなかれ」）



会員お二人から感想をいただきました

講演「その瞬間まで 私らしく」を聞いて

青木浩子（アクア千葉クラブ）

「良いんじゃないか。」尊厳死について問うた時の家人の反応。続けて「救急車で運ばれたらどうなるかな。」超高齢の父はこの5月、「もう死んでもいいのになかなか死ねないなあ。」と吐露。初めて聞く言葉に私はうろたえてしまいました。7月、自宅で倒れているところを救急搬送されました。主治医からは、高齢ゆえにどのような事態にもなりうるがその時の延命措置はどうするかと問われ、思わず「もう十分に生きたので何もせずどうぞそのままに。」と返答してしまいました。ところが少しずつ少しずつ器具が外れてまさかの回復力で退院しました。主治医の「そのまま発見が遅れていたらご本人は苦しむ事無く亡くなっていたと思います。」の一言が胸に残ります。独自のリビングウィルを作成していた事を思い出すと私の胸中は複雑です。尊厳死についてもう一步踏み込んで家人と話し合っておきたいと講演を聞いて思いました。

安福具弘（サンデークラブ）

平素は他人事のように思っているが、誰もが必ず直面する大切な問題を、網羅的に順序立てて説明された素晴らしい講演だった。おかげで、頭の整理ができ、自分の身辺整理を急がねばならないと感じた。

この分野でも、日本は他の先進国と比べて随分遅れている。基本には宗教の有無が大きく影響しているが、基本的人権の見地からでも、尊厳死を進めていく理論整備はできると思う。本人の人権に加え、介護に従事する人の処遇や、負担のかかる家族の人権も考慮されるべきである。過剰医療は、健保を圧迫し、結局財政負担がかさむ。急速に増える財政負担は、将来へのつけ回しであり、それを背負う次世代の人の人権問題にもなる。

尊厳死と医療訴訟に関する法整備が急がれるが、老人票を気にする政治家は取り上げたがらない。国民が問題の本質を理解し大いに声を上げるべきであろう。



クラブ便り

今、各クラブでは、どんなことが起きたり、どんなことを考えたり、
どんなことをしようとしているのでしょうか。

クラブからお便りをいただきました。

サンデークラブ 会員数 16名

9名が女性、7名が男性の我クラブでは手段としての英語が錆びぬ様、毎月全員が準備の上、発言の機会を持つプログラムです。母語なら何とかこなせても外国語では必ずしもそうはゆきません。語彙や備えの積み上げをしている会員は年齢を問わず成果を見せています。評価とグラマリアンの指摘はこの組織ならではの成長の機会です。全員が英語への偏見や蟠り無く、社会貢献への技術向上へと楽しい訓練中です。12月は「世界のクリスマス」、1月は「日本の伝統文化」を取り上げます。担当者から割り当てを貰ったり、各自の裁量だったり色々飛び出します。

どうぞお越し下さって目撃を願います。

横浜 クラブ 会員数 8名

今期に入ってから、9月例会に2名、11月例会に1名の見学者がありました。良いスタートです。1人でも入会者があれば、良いのですが。年々、1歩でも進歩があるように願いながら、ITC活動を行っています。どのようなプログラムを企画すれば、入会される方の心を捉えるかを皆様で考え話し合って行きたいです。新しい企画が、人の心を捉えるかと思えます。1月例会のプログラムは、留学生の日本語によるスピーチを行います。毎回、若い留学生の新鮮なスピーチに感動します。

3月例会に葦崎クラブの山口久美子様を講師に迎え、「潜在能力の開発」の講義を行って頂きます。是非、横浜クラブにお越しください。

葦崎クラブ 会員数 8名

嬉しいニュースは、一番若い会員に新しい命が授かったことです。来年の春が予定日です。その会員は、「ITCから学ぶことの数々が仕事に役立つ」ということで、仕事を終えてから夜例会に出席し、終わると同時に、4歳になる子どもを迎えに保育園に直行します。ITC、仕事、家事、育児と一人で何役も大活躍です。何事にも全力投球の彼女から元気ももらっています。私たちは、孫が生まれてくるのが待ち遠しいおばあちゃんの心境です。

♪ ♪ ♫



筑波クラブ 会員数 7名

筑波クラブはみんな仕事やボランティア、家族の介護で超多忙のため、会員の出席可能状況の把握が大事です。楽しく、知的好奇心を満足させるプログラムの提供はプログラム委員の醍醐味です。

9月は、リージョンレポート、10月は Shadowing、11月は Free Discussion; Invisible Poverty in Japan とタイムリーな話題に意欲的に取り組んでいます。10月と11月にはゲストも1名ずつ有り盛り上りました。12月のクリスマス例会はゲストがドンドン増えて嬉しい誤算でした。

無欲の勝利、イエイエ、担当者の努力のお蔭です。TXが出来て大変便利なところ。皆様も是非一度おいでください。



東葛クラブ 会員数 7名

9月「仏教を知る、その1」。
10月「ここがおかしい、ひとこと言わせて」。
11月「なるほど講座、古今和歌集」と行った。
11月の石川恵悟さん講座は、ゲスト16名の盛況。一同なるほど、なるほど…とうなずきの100分間。ゲストの皆様へ、この場をお借りして御礼を。

さて、12月例会は、例年まじめな東葛クラブが弾けるとき。「笑いまSHOW」と題して、笑いに関するバラエティショーを企画。ゲスト演者、東葛亭竜巻さんに東葛クラブオリジナル、「ITC 落語」を演じていただく予定です。うふふ。



彩玉クラブ 会員数 13名

9月23日の読売新聞埼北版(埼北よみうり919号)に、国際的女性クラブITCの紹介に合わせて彩玉クラブが会員を募集しているとの記事が掲載されました。

その結果数名の方から問い合わせいただき、10月と11月の例会には夫々1名の方が出席されました。今後会員の獲得に繋がりますよう期待しています。

12月例会のワークショップは、カントリーダンスグループをお招きして賑やかにいきますが、1月は、美味しい和食を楽しみます。また4月には香道体験 香道師範をお招きして、「源氏香」を体験します。どうぞ、ご出席をお待ちしています。



アクア千葉クラブ 会員数 9名

プログラムをご紹介します。

恒例の X マス例会「えっ?1万円で1泊旅行?!」二人一組、費用は一人1万円、出発地点に戻る、お土産を買う、会計報告をすること。以上5点の条件を背負って旅した極上のプランをご紹介します。果してこの金額でどこまで?どんな珍道中?会員達は知恵を絞り計画を密に練ること間違いなし。ああ、毎年趣向を凝らして熱演すれどもどこのTV局、劇団からもオファーが来ないのは何故?でも懲りない面々は今年も他のペアを意識しつつ秘密裏に練習に励むのであります。

1月例会「和を楽しむ」彩玉クラブの林栄子さんを講師にお招きして香道の歴史やマナーを学び、香木を焚きその趣を味わう心の遊びの世界に浸ります。アクア千葉の雅な幕開けです。



柏クラブ 会員数 16名

柏クラブは**今年度 30周年記念**を迎えます。あっという間のような、でも沢山の思い出の詰まった30年です。多くの先輩ITC役員をお迎えして盛大に行ったチャーター式典。20周年記念の小布施一泊旅行等々、先ず楽しい行事のみが思い出されます。しかしそれだけではありません。最近の例会のプログラムを見てみると、確実に各会員が実力を付けて来ているのを感じます。入念に準備し、例会当日にパワーポイント等を利用してのプレゼンは見事なものです。以前は緊張で心臓が張り裂けそうな“Issues of the Day”も最近では何とか笑いを取りながらやり過ごせる様になりました。これから5年・10年先を考えた時、ITC柏クラブが各会員にとって、精神的に支え合える、そして楽しく集い合える場であればと願っています。

東京クラブ 会員 22名

□ 今期導入の ONE WORD は、プログラム開始時に PL が出した「お題」から連想する単語を席順に、ゲストを含む全員が発表していくものです。名詞、動詞、形容詞の他、物の名前や固有名詞は OK ですが、すでに発せられた語は NG。9 月は「秋」、10 月は「仲間」でした。スムーズに行くこともあれば、突然の沈黙に一瞬緊張が走り、○秒後、言葉が繋がり安堵感に包まれたこともあります。11 月、PL はお題を、プログラム「スピーチ百珍」の論題「壁」に。面白いけど難し過ぎる？と悩んだ末の決断だったとか・・・が、実際は、ベルリン、落書き、トランプ、限界、モルタル、壁ドン・・・出席者の連想は果てしなく広がり、案ずるより産むが易し的一幕でした。

お知らせ「40周年記念の集い」

2017年5月16日(火)

於 センチュリーコート丸の内

編集者

皆様、お便りをありがとうございました。皆様が活発に活動なさっている様子がかげえます。

30周年、40周年を迎えるクラブ、おめでとうございます。きっと素晴らしい企画が組まれていることでしょう。

また、ITCの高齢化が叫ばれる中、蕪崎クラブのように子育て世代の方が頑張っておられるなんて、素敵ですね。

様々な世代の方々が、仲間と共に自己研さんに励まれている。なんて素晴らしいITCなのでしょう。

2月はスピーチコンテスト月ですね。培った知識をフル稼働させて頑張ってください。

風邪をひかないようにご自愛ください。



便りが無いのはよい知らせ。お便りを頂けなかったクラブも お元気できっとうまくやっぴらっしやることでしょう。次回のお便りを楽しみにしております。

予定

リージョン大会：2017年6月5・6・7日(月・火・水)

奈良ロイヤルホテル

カウンスル No.8 第2回会合：2017年4月22日(土)

柏の葉カンファレンスセンター

ニュースレター第3号：2017年6月 発行

編集後記

予定より少し遅れましたが、第2号がお届けできてうれしいです。私にとって大変なことがあった年が暮れようとしています。

『「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ』俵万智 S.K

「クラブ便り」から、クラブの個性が窺えます。工夫を凝らしたユニークなプログラムに興味津々です。 C.W